

地域おこし協力隊事例集



くらしの中に

総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

令和6年8月

総務省 地域力創造グループ

地域自立応援課

地域おこし協力隊事例集について

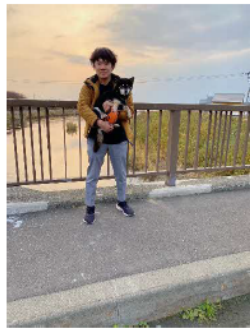
- 地域おこし協力隊の活動内容を活動分野別にまとめた「地域おこし協力隊事例集」を令和6年8月に作成・公表。

<掲載イメージ>

北海道石狩市 竹林 秀

商品開発・販売

基本情報



【年齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前職】
法律関係
【活動時期】
R5.3~

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に聚富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなどとざっくり考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むのなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人でできるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。

タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。



<活動分野>

- 1 移住・定住促進
- 2 不動産利活用
- 3 観光・情報発信
- 4 商品開発・販売
- 5 地域コミュニティ活動
- 6 漁業・水産業
- 7 農業・林業
- 8 環境保全・自然保護
- 9 医療・保健
- 10 デジタル
- 11 教育・文化
- 12 スポーツ
- 13 事業承継

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（職場））r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（フェイスブック）<https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39>